

とちく検査で発見される病気 豚編 No1 寄生虫性肝炎

☆ どんな病気なの？

寄生虫性肝炎とは豚回虫幼虫の迷入によって肝臓に白い斑点のできる病気です。見た目からミルクスポットと呼ばれます。近年とちく検査では寄生虫による病気の発見はまれですが、この病気はしばしば見られます。またこのような肝臓は廃棄の対象となります。



☆ 回虫について

回虫は代表的な寄生虫で、人、牛、馬、豚、アライグマ、犬、猫、鶏などに寄生する様々な種類の回虫があります。アライグマや犬、猫の回虫が人に寄生し重篤なトキソカラ症を引き起こすことがあります。感染源は回虫卵の混ざった糞便ですので注意しましょう。

☆ 豚回虫の発育環

豚回虫は幼虫から成虫になって産卵するまで、寄生した宿主の体内で複雑な体内周りをします。これが回虫という名の由来になっているようです。発育環は→豚による感染幼虫卵の摂取→小腸で孵化→幼虫が肝臓へ(ミルクスポットはこの時の病変)→肺から口腔→小腸(ここで成虫になって虫卵を排出)のようになっています。また排出された虫卵は抵抗性が強く何年も生存することがあります。



☆ 豚回虫の病害

豚回虫による病害として、ミルクスポットによる肝障害、幼虫が肺を移行する際の組織破壊で細菌感染の誘発、成虫による栄養分を横取り、等があげられます。さらにこれらの要因が成長の抑制や増体率の減少につながります。



☆ ミルクスポットの病理組織所見

ミルクスポットは幼虫の移行に伴う肝障害の結果できた結合組織からなっており、これが肉眼で白く見える原因です。また寄生虫感染によるアレルギー反応のため、白血球の一種である好酸球の出現が認められます。

